IRON CLUB
アイアン クラブ
創刊号
（季刊）
昭和43年12月

“アイアン・クラブ発足”

昔をなつかしみ
今日を楽しむクラブに

理事長　稲山嘉寛

ただいま理事長に選任いただきました稲山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

鋼材倶楽部が誕生いたしましてからすでに20数年を経ているわけでございますが、鉄鋼業は王者か乞食かと言われたのを地でまいりまして、いく変遷してきたのでございますが、幸いにいたしまして、今日では世界第3位というようなはなやかな地位にのし上がったのでございます。その間私ども皆さんと鋼材倶楽部を組織いたしまして、ともに重ねました苦労の数々、本当に私どもにとりましては忘れ得ぬ思い出と申しますか、感情であろうと思うのであります。

鋼材倶楽部は、いわば私どもにとりましては、第2の故郷であるかも知れません。また、このなかに本当に親友を多くつくり得たわけでございます。しかし年移るにしたがいまして、会員の方々のなかにも出世をされて外へ出て行かれた方、あるいは、もう年をとられて鉄の関係からお退きになるという方々もたくさん出ております。私どももやがてはそうなっていくわけでございますが、鋼材倶楽部の会員に

ついてはお互いの昔を語り合う場が欲しいわけございまして、私どもといたしましては、ぜひこの第２の故郷、また親友あい集まる場所がどうしても欲しいじゃないかという意見があちこちから出てまいっていたのは、皆様ご存知のとおりでございます。

そういう意味あいにおきまして、鋼材倶楽部がそういうことを兼ねてやろうということは、その性格からもむずかしい面もございますので、何か別の形のものをつくりクラブの方達で運営した方がいいのじゃないかということにあいなり、今日、鋼材倶楽部ならびに日本鉄鋼輸出組合から補助金をもらいまして、このお互いに愉快な憩いの場であるアイアン・クラブをつくったということでございます。本日は皆様本当に大勢のご協力を得まして、こんなに立派な創立総会を開くことができましたことは、皆様とともに本当にうれしく思っている次第でございます。

このうえは、クラブの運営についてもなにか良い方法を考え、本当に皆さんの旧交をあたためる憩いの場になるような運びにいたしたいと思っております。それには、私どものごときものがいろいろ考えるよりは、本当にそういうことにエキスパートであられる方々が委員となっていただいて、たとえばゴルフ場の経営みたいな仕組みでうまくやっていただいたらいいんじゃないかと思います。

幸い副理事長や監事に非常な適任者が選ばれたわけでございまして、この副理事長や監事を中心にいたしまして、本当に昔をなつかしみ、今日を楽しむクラブにしていけたらと、かように考えております。どうぞ皆様のご協力を得たいと思います。本当にありがとうございました。

（創立総会における挨拶要旨）

副理事長・監事あいさつ

茶谷副理事長

鋼材倶楽部ができまして以来、会員としてみなさんの知遇を得、非常に感謝しております。

私もいずれは消えてゆく老兵ということは非常にはっきりしておりますが、それにつきましても、やはり鋼材倶楽部に対しては、ひとつのノスタルジアを強く感じておるわけでございます。

かなり前の話で、しかも私事を申し上げて恐縮ですが、日頃親しくしておりました稲垣君に「お前もいよいよ鉄を買う方へまわったか」と言うと「おもしろくないなあ、あまりもうからん会社や」と言っておりましたけれども、その時も何かひとつクラブでもつくったらどうかというようなお話もありましたが、あれこれ思うにつけ、私はこのクラブは非常によいものになるだろうと思います。

しかし、よくなるかならんかは、シェークスピヤのように、やはり問題も残されております。しかし、私はわれわれの死場所として、このクラブを胸に抱いて去ってゆくことができれば、非常に幸福でございます。どうか私が死んだら花輪をひとつ頂戴いたしたいと思います。（笑声）

まことにお前はわけのわからんことを言うやつだ、もう死ぬ用意をしているのか、ということですが（笑声）まさに実際はだいぶ体も弱ったから、このへんでいいかげんやめたらよいのだろうと思っております次第ですので、香典を重ねてお願いいたします。（笑声）どうぞよろしくお願いいたします。

伊藤副理事長

伊藤でございます。

もうパーティの時間も迫りましたので、私は、茶谷さんのお話の一部だけを訂正いたしたいと思います。まだ死ぬつもりではございません。（笑声）

どうぞ、よろしくお願いいたします。

岡田監事

川鉄の岡田でございます。

アイアン・クラブの監事に任命されましたが、なぜ私が監事にならねばならんのかと思って、さきほどから考えていたわけですが、おそらく、昔私が銀行におりました関係から、まあ監事をやらせときゃいいんじゃないか、ということだろうと思っております。しかし銀行の仕事はおおむね忘れてしまいましたので、そのへんはひとつ、よろしくお願いいたします。

さきほどから理事長ならびに副理事長皆様方のお話を聞いておりますと、たいへん結構な会でございまして、この会は仕事と違いまして"情"（ジョウ）というか、"なさけ"というか、そういう面での寄り集まりだろうと思います。

しかしながら、昔から"情に棹させば流される"という言葉がございますが、監事として十分そちらの方は取り締りたいと存じますので（笑声）あるいはお気に召さない点がございましょうけれども、どうかひとつ、よろしくお願いいたします。

森岡監事

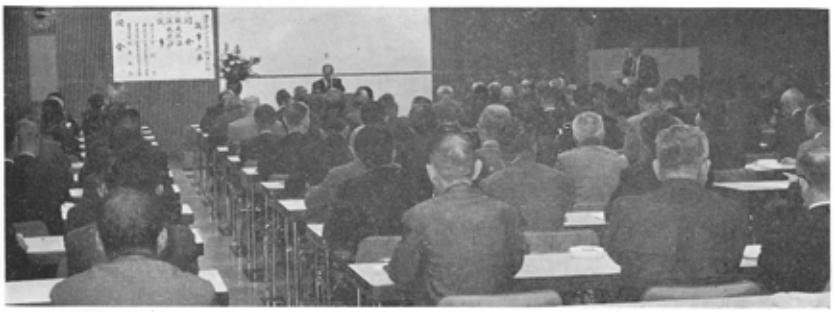
本日はアイアン・クラブの創立がかないまして、おめでとう存じます。

私は鉄鋼会館の専務をおおせつかっております関係上、今回のアイアン・クラブ設立によりまして家賃を頂戴いたすこととなりましたので、よろしくお願いいたします。（笑声）

また、かねて稲山さんのご賛同もありまして、この８階の部屋に今度舞台ができます予定で、来年の、２、３月頃には開帳いたす運びになっております。その節は、ひとつ、アイアン・クラブの主催のもとに柿（コケラ）落としをお願いいたしたいと存じます。（笑声）

今回は監事をおおせつかった次第でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

（創立総会における挨拶要旨）



写真（左）総会
（下）パーティ会場

創立総会ならびに祝賀パーティ開催

アイアン・クラブの創立総会は、去る9月24日、東京・鉄鋼会館において、多数参加のもとに開催された。

当日は議長に稲山嘉寛氏が選出され、会則、43年度事業計画ならびに収支予算について審議を行なった後、それぞれ別項のごとき役員の選出が行なわれた。

また午後4時からは盛大に祝賀パーティを開催したが、会場はきわめてなごやかで、いたるところに友好、歓談の風景が展開、いかにも創立パーティにふさわしい雰囲気であった。

アイアン・クラブ創立に寄せて

池谷頼緒

皆様の御尽力によりアイアン・クラブが創設されましたことをお祝い申し上げます。

私も業界にお世話になりましてから40余年、年も八十路に入り、近頃は隠居の身となり、皆様にお目にかかる機会が少なく淋しく感じておりましたが、クラブが出来たお蔭で、これからは時々は昵知の皆様にお逢いできる機会があることと何より嬉しく存じております。

ただ困ることには、クラブの目的を拝見すると(1)会員の知識の向上、(2)親睦融和、(3)我国鉄鋼業の発展に寄与する、という厳めしい箇条がありますが、今の私にはこの呆けた頭にこれ以上の知識の向上は望みなく、まして業界の発展に寄与するなどという大それたことは僭越至極で、ただ親睦融和に一縷の望みを繋いでおりますが、これとても先日趣味として芸能、運動、その他の娯楽についてのアンケートがありましたが、情ないことには私は生来完全な音痴、運痴の為、該当するものが一つもなく、誠に残念に思っております。昔ある会食の席上で、当時の神戸製鋼の楠本さんから「どうだいゴルフをやろうか」と誘われたはよいが、その後が悪い「但し今迄ハンデーが一度も上がらないものだけでやろうや」という無礼千万の侮辱の言を浴びせられた程です。したがって此の頃は手足纏いになる為遊んでくれる人がありませんので、ハンデーを卒業した2、3人の老人組で球コロガシをする始末で御座いますが、クラブが出来たお蔭で、恨重なる楠本さんにもお目にかかる機会があるのではないかと楽しみにしている次第です。

久保辰吉

アイアン・クラブが、人と人との和を基盤として設立されましたことは、誠に時宜に適したことと、心からお喜び申し上げる次第でございます。

私も永らく鉄鋼業界に在り、その間、本当に多くの方々の知遇を得てきましたことは、このうえない幸せと思っております。

すでに第一線を退いた現在、このクラブを通じまして再び旧知の方々とお逢いできますことは、このうえない喜びでございます。

当クラブ室には囲碁、将棋なども備えつけられているとのことですが、これからは、時折り利用させていただきたいと思っております。

最後にこのクラブが今後も益々発展されんことを祈り、私の挨拶といたします。

谷　清訓

会報アイアン・クラブ第1号発刊につき、祝辞を申し述べるよう、未熟な私にもご指名いただいたことは、来年3月末には、鉄鋼の仕事から離れることもなく、満50年の長い波瀾の多かった時代に、仕事をさせて貰ってきたことを買っていただいたことによるものと感謝しています。最初業界に入った頃は、日本の鋼塊生産は年80万トン前後で、官営の八幡製鉄所外少数のメーカーが高炉を持ち、その他は平炉から作業をしていました。当時は富国強兵の時代で、日本の歩み方としても止むを得なかったと思います。しかし時代は大きく展開し、今は激増した国内の需要も十二分に賄い得られ、また鉄鋼によって未開発地域の開発の援助もできる超一流の大製鉄国となりました。永年鉄鋼の仕事に従事してきた者としては、これ以上の喜びはありません。幸い待望のアイアン・クラブも発足しました。向後は皆様からいろいろとご教示を受け、お話相手となることができれば、これ以上の楽しみは無いと思っています。

以上を以って、私の祝辞といたします。

清水芳夫

「友遠方より来る、また楽しからずや」…むかし私達がよくもちいた外交辞礼でもありました。けれど、友近きにあれば尚更に楽しいはずで、そこに「アイアン・クラブ」創立の深い意義があるように思われます。

鉄に関連した仕事で、現に苦楽を共にし、またはしてきた人々が、いつとはなしに寄り合い、はばかることなく、ものをいい、あるいはたわむれる広場があって欲しい、と念願していた私達の夢が、このたび実現されましたことを、私も心から感謝している一人です。鉄鋼業が、日本をはずしては何も語れない今日、このうえは業界の一層の躍進と並んで、わが「アイアン・クラブ」も世界に誇りを持って、楽しく成長することを希って止みません。そしてやがて国際的な「アイアン・クラブ」が生まれるときの温床となるであろうことを期待しながら、私は衷心より、お礼とお祝いを申し上げる次第です。

稲垣　登

当日出席された方々の顔を見ると、ほとんどは現役のチャキチャキの人たちであったので、このクラブの設立されたことに対しては、それほどの感激がなかったことは事実であろうと思います。しかし、すでに鉄鋼界の現役から離れている人たちにとっては、このクラブが設立されて、何の気がねなく気楽に出入りができるように、細心の気を使って設営された部屋を見て、ぐっと熱いものを胸にこたえたものは、私一人でなかったと思います。

稲山理事長のごあいさつの中の「昔を懐しんで今を楽しみましょう」の名句そのものの空気は、クラブいっぱいに漲っていました。いつまでも、このクラブの設立の本当の趣旨を生かしてゆくためには、会員相互お互いの地位、名誉、利害関係を離れて、オイ貴様式に語り合い、昔話に花を咲かせられる雰囲気のあるものに育ててゆく心がけが必要だろうと思います。そして、あれほど激しいメーカー間の競争、商社間の激突の絶え間ない鉄鋼界に、何かの鎮静剤として役立つものが、ここから生まれ出てくるようなことがあればとさえ考えられるのであります。

私にとっては、鉄鋼界の人たちの人情のあたたかさは、しみじみと身に感じられてなりません。これは、世界経済の先端をつっ走っている日本の鉄鋼界が、また熱い血の通った人情の世界であることを世界に誇りうるという現実の姿を示すものであろう、といいえないでしょうか。

4氏が叙勲・褒章の栄

政府は去る9月7日、11月3日、秋季藍・黄綬褒章ならびに叙勲の発表を行なったが、当クラブ会員より次の4氏がそれぞれ受章の栄に浴しました。

藍綬褒章

清水芳夫氏

中島　正氏

町田業太氏

勲四等瑞宝章

高橋愛次氏

◇◇設立に至る経緯◇◇

アイアン・クラブ設立に至る経緯については、去る9月の創立総会において、発起人である伊藤太一郎氏（丸紅飯田）より詳細報告が行なわれたが、今回改めてその経過をふり返ってみることとする。

本クラブ設立の発端は、去る昭和41年4月、現在の鉄鋼会館が完成した時、鋼材倶楽部会員を中心として設立要望の声があがっていた。

従来、鉄鋼業界には各種の事業者団体が存在するが、いわゆる個人を対象とした親睦機関はその例がなかった。日頃同じ業界にあって親しくしていた方々が、すでに第一線を離れた時、あるいは他業界に転出された場合、共に語り合う共通の場がなかったのが、現在までの姿であった。業界の発展も社会の進歩も、人と人との繋り、和によっている以上、旧知が語り合える場、多忙な人が気軽に寛げる場がどうしても必要ではないかという声が、その後も一層高まってきたのである。

このような情勢を背景として、関係者間でその後よりより協議が重ねられた結果、とりあえず鋼材倶楽部ならびに日本鉄鋼輸出組合の方々を中心とした親睦機関をつくることに進展し、今回の設立に至ったわけである。

以下に設立までのあらましを記す。

4月17日	発起人会	鋼材倶楽部の総合委員会終了後、その場を発起人会とし、会則、事業方針等を検討、了承。
5月中旬	各社宛会員候補者の推薦依頼	鋼材倶楽部総会において予算承認後、各社宛に会員候補者の推薦を依頼。
6月上旬	鋼材倶楽部理事会	アイアン・クラブのアウト・ラインを報告。
6月中旬	会員候補者の確定	会員各社よりの報告に基づいて会員候補者を確定。
6月下旬	勧誘状出状	会員候補者に対し、入会勧誘状を出状。
7月下旬	入会申込締切	入会申込書の到着によって会員を確定。
8月中旬	総会案内出状	全会員に総会案内状を出状。
9月24日	創立総会	創立総会を開催、会則、予算、会費、入会金の承認および役員の選任を行なう。
同日	アイアン・クラブ理事会	理事長・副理事長・常任理事を選出。
同日	創立祝賀パーティ	祝賀パーティならびにクラブ室披露を行う。

お宝拝見

岡田　儀一氏（談）
（日新製鋼会長）

父親が堂島の米相場に失敗してスッテンテンになり、さんざん貧乏したおかげで先祖伝来の宝ものなど、それまでもあったかどうか知らないが、とにかく何ひとつない。書画とか陶器とか骨董とか、そういうものには全くの盲同然だ。絵をみれば好きなものもあるし、美しいと思うものもあるが、それ以上のことはまるでわからないのだから困ったものだ

しいて宝といえばこの「からだ」かな……。自分で探し求めたものでもなく、ふた親から貰ったものだが、今日こうして元気でいられるのもこの「からだ」のお蔭だから、これ以上の宝ものはないだろう。戦後、24、5年ごろ結核にかかって、

医者から半年もたないといわれたがストレプトマイシンで助かった。もっともその副作用で耳が遠くなりはしたが、しかし、その後はすっかり丈夫になって病気ひとつしない。

いつだったか、茶谷（注：日本砂鉄鋼業社長）、喜代永（注：東海鋼業社長）両君と一緒に風呂にはいったことがあるが、裸のわたしをみて「いい体をしている」といって感心するんだ。とりわけ"一番大切なところ"が若々しくて立派だというのには大笑いした。特別の健康法とか、摂生法をやっているわけでもないし、そうかといって粗末にもしていないが、丈夫でいられるのは有難いことだ。

これは宝ものとは違うが、自慢できるものといえば清元と碁だ。清元はもう40年になるし、碁は中学生の時に覚え、本格的に先生についたのは40才を過ぎてからだが、この二つは自分でもしろうと離れしていると思っている。

役　員　氏　名

(ABC順)

理 事 長
稲山　嘉寛　(八幡製鉄)

副理事長
茶谷　順次　(日本砂鉄)
伊藤太一郎　(丸紅飯田)

理　　事
阿部　　譲　(八幡製鉄)
越後　正之　(伊藤忠商事)
橋本　栄一　(三井物産)
服部　　浩　(日新製鋼)
檜山千代松　(日本鋼管)
堀　　宗一　(東海鋼業)
市川　　清　(大阪鋼材)
池田利喜蔵　(中山製鋼)
池谷　頼緒　(入丸産業)
稲垣　　登　(三井建設)
猪崎久太郎　(安宅産業)
加藤　五郎　(住友商事)
木村　泰雄　(住友金属)
岸本吉右衛門　(大倉商事)
喜代永政雄　(東海鋼業)
久保　辰吉
前田　健蔵　(伊藤忠商事)
槻田　久生　(日本鋼管)
宮本　伯夫　(川崎製鉄)
宮坂喜四郎　(入丸産業)
宮崎　右太　(東洋鋼鈑)
村田　豊雄　(東洋棉花)
中村彦三郎　(鈴木金属)
中家　　寿　(大阪鋼材)
乗添　利光　(川鉄商事)
種田　孝一　(住友金属)
岡田　儀一　(日新製鋼)
岡田　　貴　(石橋鋼産)
岡村　　武　(日商岩井)
岡谷　康治　(岡谷鋼機)
大嶽宏太郎　(日綿実業)
大内　俊司　(富士製鉄)
斎藤英四郎　(八幡製鉄)
椎名時四郎　(住友商事)
清水　芳夫　(日本鋼管)
榛葉　静策　(兼松江商)
塩田　道夫　(鋼材倶楽部)
白井震四郎　(神戸製鋼)
曽我野秀雄　(神戸製鋼)
田子　　健　(日商岩井)
田部文一郎　(三菱商事)
谷　　清訓　(三菱製鋼)
田坂　郷敬　(富士製鉄)
打浪　吉朝　(日新製鋼)
矢作　元吉　(関東銑鉄)
山本　元三　(住金物産)
山野上重喜　(日本高周波)
吉崎　　秀　(トピー工業)

監　　事
森岡秀三郎　(鉄鋼会館)
岡田　貢助　(川崎製鉄)

会　則

第1章　総　則

(名　称)
第1条　本会は、アイアン・クラブ（以下本クラブという）と称する。

(目　的)
第2条　本クラブは、会員の知識の向上、ならびに親睦融和をはかり、もってわが国鉄鋼業の発展に寄与することを目的とする。

(組　織)
第3条　本クラブは、前条の目的に賛同して加入した会員をもって組織し、会員相互の信頼と協力とを基礎とする。

(事務所)
第4条　本クラブの事務所は、社団法人鋼材倶楽部事務局の中に置く。

(事　業)
第5条　本クラブは、第2条の目的を達するため、次の事業を行なう。
1. 講演会、懇談会、その他集会の開催
2. 会員の集会設備の管理運営
3. その他本クラブの目的を達するに必要な事業

第2章　会　員

(クラブ活動への参加)
第6条　会員は、諸会合に出席し、クラブ室を利用し、会報その他の出版物、資料の配布を受け、その他事業および行事に参加することができる。

(会員の加入)
第7条　本クラブに加入することのできる者は次のとおりとし、理事会の承認を得るものとする。
1. 社団法人鋼材倶楽部、日本鉄鋼輸出組合の役員およびその経験者
2. 前項両団体の会員会社の代表者、その他理事会の推せんを得た者

(入会金、会費)
第8条　会員は総会で定められた入会金を納め、会費を負担する義務を負う。入会金および会費は返却しない。

(会員の資格喪失)
第9条　会員の資格喪失は次の場合による。
1. 脱会の届出
2. 理事会の決定

第3章　役　員

(役　員)
第10条　本クラブには次の役員を置く。
1. 理　事　　若干名
2. 監　事　　若干名

(役員の選任)
第11条　理事、監事は総会において選任する。
第12条　理事の互選により理事長1名、副理事長若干名、および常任理事若干名を選任する。

(役員の任期)
第13条　役員の任期は2年とし、その就任後第2回目の定時総会終了の時までとする。ただし再任を妨げない。

(役員の職務)
第14条　理事長は、本クラブを代表し、会務を総理する。
副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故あるときは、その職務を代行する。
常任理事は理事長、副理事長を補佐し、担当業務を掌理する。
監事は本クラブの経理および業務を監査する。

(名誉会員および顧問)
第15条　本クラブに名誉会員、および顧問を置くことができる。名誉会員および顧問は理事会の議を経て、理事長が推挙する。

第4章　会　議

(種　別)
第16条　会議は総会、理事会、常任理事会とする。

(総　会)
第17条　総会は、定時総会および臨時総会の2種とする。
定時総会は、毎会計年度終了後2ヵ月以内に開催する。
臨時総会は、理事会において必要と認めたとき、または会員の五分の一以上の要求によって開催する。
第18条　総会は理事長がこれを招集し、以下の事項を決議する。
1. 事業計画および予算の承認
2. 事業報告および決算の承認
3. 会費および入会金
4. 役員の選任および解任
5. 会則の変更
6. 解　散
7. その他理事会において必要と認めた事項

第19条　総会は会員の半数以上の出席を得て成立し、出席会員の過半数をもって議決する。可否同数の場合は議長がこれを決する。
第20条　会員は、各1個の表決権を有する。
表決権の行使は他の会員にこれを代行させることができる。

(理事会)
第21条　理事会は理事長が必要と認めたとき、または理事の三分の一以上の要求により随時開催する。
第22条　理事会は、以下の事項を決議する。
1. 総会議題の立案
2. 総会で委任された事項
3. その他業務執行上特に重要な事項

第23条　理事会は理事の半数以上が出席し、出席理事の過半数をもって議決する。可否同数の場合は議長がこれを決する。

(常任理事会)
第24条　常任理事会は理事長、副理事長、監事および常任理事をもって構成し、理事会の委任を受けて業務執行上の重要事項、およびその他の委任事項を審議決定する。

(委員会)
第25条　理事長は、本クラブ業務の円滑な運営を図るため、必要と認めた場合は委員会を設けることができる。
委員会に関する規定は、理事会の議決を経て理事長が定める。

第5章　会　計

第26条　本クラブの経費は入会金、会費、寄付金および補助金、その他の収入をもってこれに当てる。
第27条　本クラブの会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

〔常任理事会〕

常任理事会は理事長、副理事長、監事および常任理事をもって構成し、理事会の委任を受けた業務執行上の重要事項ならびに本クラブの具体的運営事項の審議決定に当たることなっている。なお常任理事は以下のとおり。

（ABC順）

稲垣　登	（三井建設）	斎藤英四郎	（八幡製鉄）
加藤　五郎	（住友商事）	塩田　道夫	（鋼材倶楽部）
木村　泰雄	（住友金属）	田部文一郎	（三菱商事）
槇田　久生	（日本鋼管）	田坂　輝敬	（富士製鉄）
宮坂喜四郎	（入丸産業）	打浪　吉朝	（日新製鋼）
村田　豊雄	（東洋棉花）	吉崎　秀	（トピー工業）

アイアン・クラブ組織図

事務局：（社）鋼材倶楽部内

アイアン・クラブ委員会規則

（目　的）
第1条　この規則は会則第25条に基づき、委員会に関する必要な事項を定める。
（名　称）
第2条　本クラブには次の委員会を設ける。
(1)　財務委員会
(2)　事業委員会
(3)　文化委員会
（分担事項）
第3条　委員会の分担は次のとおりとする。
(1)　財務委員会
予算、決算等財務に関する事項
(2)　事業委員会
定例午餐会、定例講演会、会報の刊行のほか、会員の要望による事業活動およびクラブ室の運営、管理に関する事項
(3)　文化委員会
会員の趣味、同好に関する事項
（構　成）
第4条　委員会の委員は会員のうちより理事長これを選任する。
（委員の任期）
第5条　委員の任期は年とし、その就任後第2回目の定時総会終了の時までとする。ただし再任は妨げない。
（委員長および副委員長）
第6条　委員会は委員の互選により、委員長1名、副委員長若干名を置く。
2.　委員長は委員会を主掌し担当事項について必要とみとめるときは、理事長に対し意見を具申することができる。
副委員長は委員長を補佐する。
（委員会の招集）
第7条　委員会は委員長がこれを招集する。
（委員会の活動）
第8条　委員会は、その担当事項について企画、立案または実施し、その結果について理事長に報告しなければならない。
（決議の方法）
第9条　委員会の決議は出席委員の過半数をもって行う。
可否同数の場合は委員長が決する。
（合同委員会）
第10条　審議する事項が2以上の委員会に亘る場合は合同委員会を開催することができる。
（議事録）
第11条　委員会の議事については議事録を作成する。

委員会組織について

本クラブの委員会組織および会則につきましては、去る10月14日、第1回常任理事会を開催し、別項のとおり、それぞれ決定をみましたが、席上、併せて財務、事業、文化3委員会の委員長、副委員長を互選により、次のとおり選任いたしました。

財務委員会	委員長	斎藤英四郎
	副委員長	塩田　道夫
事業委員会	委員長	伊藤太一郎
	副委員長	加藤　五郎
	同	吉崎　秀
文化委員会	委員長	森岡秀三郎
	副委員長	宮坂喜四郎
	同	村田　豊雄

また、稲垣常任理事より、65才以上の会員を対象に"O・B会"を設けることが好ましいとのご発言もあって、O・B会を設置することとなり、委員長には同氏が選任されました。

その後、財務、事業、文化各委員会の正・副委員長にご参集願い、各委員会委員の選任を行なった後、事業活動の基本路線について種々懇談が行なわれました。

まず、委員につきましては、各委員会の性格、内容等を前提に、慎重に協議いたしました結果、会員のうちより、下記各氏にご就任いただくこととなりました。

財務委員　（ABC順）

橋本栄一	（三井物産）
檜山千代松	（日本鋼管）
前田健蔵	（伊藤忠商事）
宮本伯夫	（川崎製鉄）
種田孝一	（住友金属）
大内俊司	（富士製鉄）
白井震四郎	（神戸製鋼）
田子　健	（日商岩井）
田部文一郎	（三菱商事）
打浪吉朝	（日新製鋼）

事業委員　（ABC順）

原　亨	（川崎製鉄）
服部一郎	（日新製鋼）
入江貞夫	（八幡製鉄）
岩下好雄	（日本鋼管）
川村政雄	（丸紅飯田）
中村貞夫	（伊藤忠商事）
大倉敏男	（三菱商事）
多々良一	（東洋棉花）

文化委員　（ABC順）

日向敏雄	（住友金属）
堀　宗一	（東海鋼業）
菅野小五郎	（東芝製鋼）
野原産治郎	（三井物産）
大島礼二	（富士製鉄）
榊原竜次	（岡谷鋼機）
桜井徳治	（日商岩井）
吉本利男	（日本鉄板）

本クラブ発足後、3ヵ月を経過しまして、この間、委員会体制固め等のため、事業活動を行ない得なかったことを深くお詫び申し上げますが、明春以降は活発な活動を展開することとなっておりますので、ご期待いただきたいと存じます。

当面予定しております事業内容としては、月例の午餐会食を開催、会員によるテーブル・スピーチなどをお願いし、親睦、融和を図るとともに、隔月に定例講演会を開催し、各界知名人のお話を伺うこととしております。

また、サークル活動につきましては、先般の趣味、娯楽のアンケート調査結果に基づき、囲碁、小唄、釣、写真、将棋等の各サークル班を設置し、より積極的な活動を行ないますとともに、ご要望に応じ、懇親ゴルフ会、懇親麻雀会を開催することとなっておりますので、よろしくご参加、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。

（事務長　長谷川清）

会員の趣味
アンケート調査結果

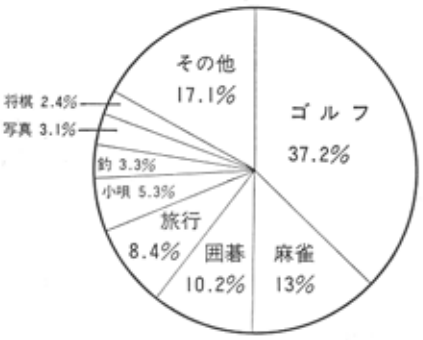
本クラブの事業活動は、毎月の定例午餐会、隔月の定例講演会をはじめ、会員の趣味、娯楽に応じて各種のサークル班活動を随時実施してゆきますが、これに先立ち、去る10月、趣味、娯楽のアンケート調査を行ないました結果、354通（調査対象、全会員）の回答が寄せられましたので、以下にその概要をお知らせします。

会員の趣味、娯楽の大宗は、なんといってもゴルフで、274名、全体比37.2%を占めており、次いで麻雀96名、同13%、囲碁75名、同10.2%、旅行62名%、同8.4%、小唄39名、同5.3%、釣25名、同3.3%、写真23名、同3.1%、将棋18名、同2.4%の順となっております。

次いで、書道、謡曲、俳句、文楽、清元、絵画が挙げられ、このほかの趣味としては、能楽、歌沢、日本舞踊、短歌、スポーツ鑑賞等々で、会員の幅広い趣味の一端がうかがわれました。

文化委員会では、別項のとおり、これら会員のご要望に応じて、それぞれサークル班を設け、さらに趣味を同じくする会員のうちから、お世話役を選んでいただき、バラエティーに富んだ、楽しい活動を積極的に展開することを予定しており、また、囲碁、小唄、写真、将棋等につきましては、それぞれ斯界の専門家を招聘する準備を進めております。

本クラブの意図するところは、これらサークル活動を通じ、全員が旧知を暖め、親睦を図ることにあり、かつまた、事業活動充実のためにも、ぜひとも、ご参加いただき、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。



お知らせ

◎現在、会員名簿を作成中でございますので、近々中に皆様のお手許にお届けいたします。
　会員数はその後の入会分を含め、現在518名に達しました。
◎クラブの運営、事業活動等について、ご意見、ご要望があれば、**鋼材倶楽部会員課**までお申し付け下さい。

投稿ご案内

随筆、俳句、詩、紀行文、写真など題材はご自由ですが、多数のご投稿をお願いいたします。

マーク由来

デザイン
増田 正

アイアンのIに鋼板の力強さを、クラブのCに鋼管のイメージを、2つのコンパクトデザインによるクラブの人の和をシンボライズしたものです。

◇

§　クラブ室のご案内　§

クラブ室は、鉄鋼会館9階に26.04坪（85.93㎡）を占有し、会員の憩いの場、談話の場として使用に供しております。

室内は、ハワイアン・ブルーとナイト・ブルーをアレンジした落着いた雰囲気で、専用バーをはじめ囲碁・将棋コーナー、パター練習コーナーを設け、随時、利用できるよう準備を整えてございます。

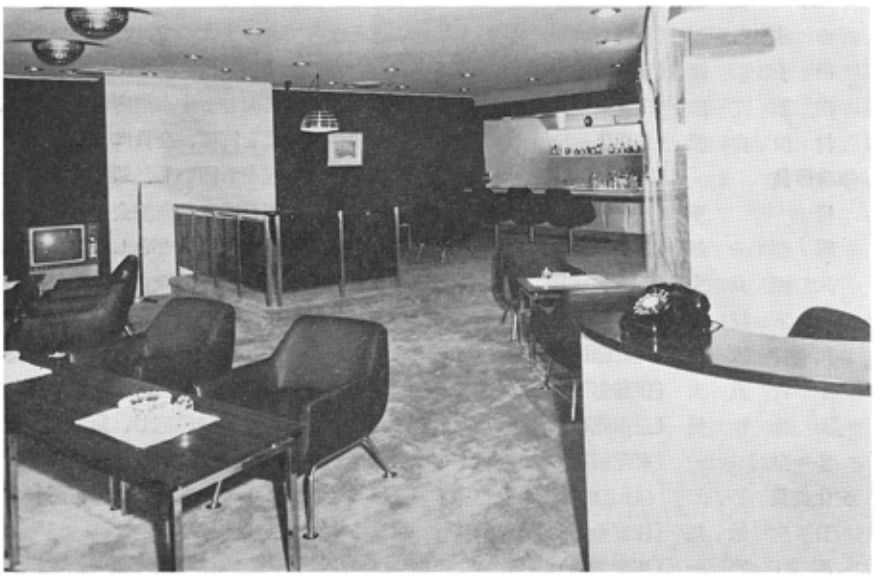
クラブ室の利用時間は、平日午前11時開室、午後8時閉室（ただし土曜日は午後5時閉室）となっており、ご来室の際には、備え付けの署名簿にご記入していただくこととなっております。

なお、クラブ室は、原則として会員以外の入室をお断りしてございますが、会員が会員以外の方を同伴する場合には、この限りではございません。

小野　嘉明　バーテンダー
山梨県出身。趣味は野球、麻雀。将来は自分でバーを開くつもりです。

中野　智江　ウエトレス
東京都出身。趣味は自動車の運転。将来は自分の店をもちたいと思っています。

山口　利子　ウエトレス
北海道出身。趣味は手芸とレコード鑑賞。将来は自分の店をもちたいと思っています。



編集あとがき

▶クラブ会報の創刊号をお届けいたします。当初予定よりも遅れましたことをお詫びいたしますとともに、お気付きの点がございましたら何んなりとお申し付け下さい。▶本号はご覧のように創立記念に因んだ特集をいたしました。理事長をはじめ皆様方のご挨拶のごとくアイアン・クラブが真の親睦と交流を図る場であるように、本会報もまた皆様方の共通の広場として広く親しまれるよう育ててゆきたいと思います。▶「宝」とは一般的には財宝・財貨の類を指していう場合が多いが、人にはそれぞれいろんな意味で宝といえるものがあります。そんな意味で第1回として、日新製鋼会長の岡田儀一氏をお伺いし、同氏のお宝を拝見いたしました。次号からも連載の予定です。▶本紙は当面季刊として毎年3、6、9、12月の中旬発行の予定です。▶今年も後わずかとなりました。皆様には何卒ご健勝にて、佳きお年をお迎え下さい。

発　行：アイアン・クラブ
東京都中央区日本橋茅場町
3—16（鉄鋼会館）
（社）鋼材倶楽部内
TEL 669-4811(大代)☎103
編集人：長谷川　清